

地域コミュニティ協議会名称

葛塚連邦：葛塚ポンポンあしはら国

活動名称

自主防災組織の結成及び防災訓練

世帯数

約2,520世帯

活動内容

葛塚ポンポンあしはら国は、世帯数で見た自主防災組織の結成率が、北区全体の53%に対して33%と、地域内でもその低さを課題としていましたが、世帯数が50世帯に満たない自治会が半数近くあるため、単一自治会での結成が困難な状況でした（全20自治会のうち結成5自治会）。

近年、県内でも自然災害が多発していることから結成の機運が高まり、当協議会の地域安全部会及び総務広報部会が中心となって全自治会での結成に取り組むこととなりました。

合同組織づくりに向けた役員会議を繰り返し開催し理解を深めていきました。この結果、未結成の15自治会のうち1自治会は単独で、14自治会は合同で「葛塚ポンポンあしはら国防災会」を結成しました。これにより、当地区の結成率は100%となりました。

平成20年6月22日（日）には、地域内20の全自治会が参加し、合同自主防災訓練を実施しました。役員が作成した、訓練マニュアルに従い、第1次避難所までの避難及び葛塚小学校での体験型訓練が行われました。また、救急救命訓練では、消防署職員の指導のもと、地域内の救急・救命上級資格者のサポートにより大勢の方に心肺蘇生訓練等を体験していただきました。

【訓練内容】

- 住民避難・報告訓練
- 非常食炊き出し訓練
- 救急救命、消火訓練
 - ・応急救護・心肺蘇生・初期消火訓練



訓練の様子

実績・効果

合同自主防災訓練参加人数：625名

この防災訓練で、組織内での業務分担や相互の連携など、災害避難時に必要とされる行動を体験することができ、防災資材、応急救護用品などの知識及び取扱い方法についても理解を深めることができました。単一の自主防災組織だけでなく地域全体での活動は「地域力」を高めるためには重要なことだと思われれます。

今後も合同訓練を繰り返し行うことによって、地域の一体感の醸成と防災意識の啓発に努めていきます。

地域コミュニティ協議会名称

葛塚連邦：太田拾國共和国

活動名称

青色防犯パトロール

世帯数

約470世帯

活動内容

全国各地で児童生徒の連れ去り事件が発生していることに危機感を持ち、平成17年2月から地域内パトロールを実施しています。当初月1回、下校時間と夜間に行っていましたが、その後月2回になりました。

当初は、自治会長とコミュニティ推進員数名で行っていたパトロールでしたが、その後、各自治会推選のパトロール隊員や太田小学校教育振興会（PTA）の役員に参加を呼びかけ、しっかりした組織になりました。

平成20年8月からは、市から自主防犯パトロール団体の委嘱を受け、青色回転灯装備車2台によるパトロールを実施しています。

昼の下校パトロールは、おもに自治会長が担当し、夜間パトロールは、パトロール隊員、太田小学校教育振興会役員、コミュニティ推進員が担当しています。

このパトロール活動で特徴的なことは、パトロールに出かける前と終了後に参加者によるミーティングが行われることです。特に、地域内の安心安全にかかわることについての情報交換や意見交換の場になっています。

いままでに話し合われたおもなものでは、「通学路なのに防犯灯がない」「放水路脇の道路にガードレールがなく危険」「高速道路下のボックス付近に粗大ゴミや有害図書などの不法投棄や落書きが後を絶たない」などがあります。

このような話し合いの中から、パトロールしながら自分たちで処理できない大量のごみや落書き、通学路の防犯灯設置などについては、市の担当課に処理や整備をお願いしています。

「自分たちでできることは自分たちの手で」のボランティア意識の高揚に努めながら、行政との協働による安全なまちづくりを進めています。



パトロールで落書きを発見

実績・効果

パトロール隊員登録数57名。

パトロール隊を組織したことにより、地域内で緊急な事案が発生したとき、すぐ対応ができるようになりました。地域の安心安全面についてお互いに関心をもつことができるようになってきています。また、自分たちでできることは自分たちで処理しようという意識ができています。

地域コミュニティ協議会名称

コミュニティ木崎村

活動名称

安心・安全な地域づくり

世帯数

約3,000世帯

活動内容

近年国内の治安情勢は犯罪の多発等、安心・安全が損なわれています。地域内においても不審者の出没等東港周辺を取り巻く環境は外国人の犯罪・盗難事件等が重なり安心・安全が懸念されてきました。このため、18年度から防犯部会の防犯・交通安全対策を重点事項として地域の日常活動安全確保のため活動を展開しています。

また、小中学生の登下校時を中心に、青色回転灯装備車による地区内の防犯パトロールを月2回実施し、さらに東港周辺セーフティネット地域に指定されたため、市・警察・コミュニティが中心となりパトロールを強化し（月3回）犯罪等の抑止に努力しています。

<主な活動内容>

- ① 春・秋の交通安全週間に合わせて、交通安全持経観音祈願供養祭並びに交通安全人間のぼり旗作戦の実施。(年2回)
- ② 青色回転灯装備車による地区内防犯パトロールを毎月2回実施。
- ③ 東港周辺セーフティネット地域を青色回転灯装備車により市・警察・コミュニティが中心になって毎月3回程度実施。
- ④ 中学2年生を対象に防犯標語を募集し、優秀作品5点を看板作製し、各自治会に配布し、掲示。(毎年5枚作成し、各自治会内に設置)
- ⑤ 小学生を対象に、防犯ブザーを斡旋。



交通安全 人間のぼり旗作戦



中学2年生の防犯標語優秀作品で看板作成

実績・効果

地区内の全自治会参加による、春・秋の交通安全持経観音祈願供養祭並びに交通安全人間のぼり旗作戦による啓発活動をねばり強く実施し、交通安全への関心が高まっています。

また、青色回転灯装備車による東港周辺パトロールでは、外国人向けに3カ国語（英語・ロシア語・ウルドゥー語）による防犯広報を実施したことにより、犯罪件数が大幅な減少傾向にあり、顕著な実績が現れています。

地域コミュニティ協議会名称

東山の下地区コミュニティ協議会

活動名称

地域の安心安全を目指す緊急連絡網の確立活動

世帯数

約6,160世帯

活動内容

平成20年春に東山の下地区で放火事件が発生し、防犯対策に緊急連絡網が必要と考え、区内32自治会・町内会に警戒意識を高めてもらうため、別事案も含め2回ほど緊急電話連絡を試みましたが、約半数が不在等で連絡が取れず、今後その効果は期待出来ない事を認識しました。

これをきっかけに、留守でも効率のよい連絡が取れる方法として、ファクシミリ連絡網が最適ではないかと話し合い、会長会議に諮り、自治会・町内会を4ブロックに分けてファクシミリ連絡網を構築することに賛同を得ました。

自家用のファクシミリを連絡網にも併用して提供して下さる自治会・町内会も含め、開設したところはまだ全体の60%ほどですが、今後の必要性を認識してもらい、100%開設を目指して、身近な出来事や、子どもに対する犯罪等の警戒情報などをいち早く配信し、全自治会・町内会であらゆる情報を共有して、地域の安心・安全、地域交流に役立てられるように努力していかねばならないと考えています。なお、機器未設置の自治会・町内会は、今後、ブロック長が順次設置していく予定です。

平成20年11月に開催された、東区自治会長・町内会長に感謝の集いの講演のなかで、神戸市内のある自治連合会の事例として、2日間で全町内に連絡が行き渡り、団結し、防犯・防災に効果をあげているとお話を聞き、東山の下地区コミュニティ協議会が目指すファクシミリ連絡網構築の必要性・重要性を改めて認識したところです。

実績・効果

ファクシミリ連絡網の開始により、天候不順な時期には特にその効果が発揮されました。留守宅にも連絡でき、区役所からの緊急連絡も受信次第すぐに配信できたため、対応が早くなりました。また、校区内の子どもに対する痴漢などの犯罪情報も配信して警戒を促し、地域全体で対策を強化することができたことから、役員の安心感が得られました。今後も多岐にわたる情報を広く地域住民の皆様と共有できるよう努力し、安全で住みよい地域を目指したいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

江南小学校区コミュニティ協議会

活動名称

災害と犯罪に強い安心安全なまちづくり活動

世帯数

約3,040世帯

活動内容

江南小学校は、東区江南に位置し、平成19年4月、新潟市が政令指定都市へ移行したのに伴い、江南小学校区コミュニティ協議会が発足、傘下に生活環境・福祉厚生・安心安全・教育文化の4部会が設置されました。

近年は、地震・風水害等の大規模災害が頻発、一方では児童・生徒を狙った略取、連れ去り事件等が多発するなど「安全」が脅かされている現状を背景に、当コミュニティ協議会安心安全部会では「地域のことは、地域で守る」という基本的な考えから、自治・町内会（以下、自治会等という）の協力を得て災害、犯罪に強いまちづくりを目指すことにしました。

その一環として、本庁・東区役所職員を講師に招き、自主防災組織及び安心安全パトロール隊結成等に向けた「出前講座」を開催し、自治会等が取り組みやすい環境づくりに努めました。

現在は、地域の防犯、登下校時の児童・生徒の事故防止を図るため、町内・通学路などの交通安全、見守りなどを重点に日常的な巡回や江南小学校からの協力要請に基づく緊急的な巡視を実施し、地域の皆さんから真に信頼され、親しまれるパトロール隊に向け鋭意努力しております。



「秋の交通安全運動」の開始日 平成20年9月22日(月)
朝7:00 安心安全パトロール隊集合



江南小学校・石山中学校の児童・生徒の登校時の安全確保の為、校区内交差点で活動

実績・効果

当コミュニティ協議会は、8自治会、6町内会の14自治会等で組織され、昨年4月の時点で自主防災組織結成5自治会、パトロール隊結成1自治会が、「出前講座」を開催した結果、現在、自主防災組織結成6、パトロール隊結成9自治会まで拡大。また、パトロールを通して地域住民、子どもたちとの融合により日常の挨拶や会話を交わす人も増えるなど信頼関係が構築されてきています。

一方、防災資機材備蓄庫の建設費や巡回時のベストなどの調達費捻出等で各自治会等は厳しい状況にありますが、引き続き防災・防犯活動の一層の充実に努めて参ります。

地域コミュニティ協議会名称

中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

安心安全パトロール活動

世帯数

約4,500世帯

活動内容

中野山小学校周辺は、子どもの多い地域です。小学校は創立130周年を過ぎ、学校に愛着を感じている地域住民が多くいます。

昨今の不審者が出没する社会情勢をみて、平成18年10月より「中野山安心安全パトロール隊」を立ち上げ、小学1年生の下校時に合わせたパトロールを開始しました。

パトロール隊は、各自治会から推薦された人で毎年80人以上で編成しています。平成20年度の登録者は155名です。

学区を東西エリアに分け、毎日1年生の下校時玄関前に集合、各エリア8人：子どもと一緒に通学路を巡回（1組2人以上）しています。巡回の際、子どもはもちろん地域住民と挨拶を交わすことを心がけています。また、年1回以上の研修会も実施してきました。

各班（東エリア5班、西エリア5班）の班長は、毎日巡回日誌を書き、防犯上や交通安全上問題を感じたことはエリア長に報告し他の班に連絡しています。エリア長は、小学校と連絡を密に取ると共に県警のホームページ「不審者情報」を見て必要と感じた都度、便りとして全隊員に配布し巡回の際の参考にしてもらっています。

さらに、臨時に夕暮れ時、隊員の自宅近くで高学年の下校の状況を見守ってもらうこともあります。



実績・効果

毎日地域住民の誰かが学校の玄関前に集まり、顔を合わせることで子どもは勿論学校の職員とも顔見知りになり、挨拶を交わしたり情報交換ができるようになりました。

また、子どもとパトロール隊員、パトロール隊員と地域住民が気軽に挨拶するようにもなりました。さらに、ユニホーム姿を地域に見せる効果のためか、県警のホームページの「不審者情報」は当地区内はほとんどなくなりました。

今後、地域住民同士の交流を深める活動や他団体との連携を工夫しながら、より安全な地域を目指したいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

南中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域のことは地域で守る安心安全まちづくり活動

世帯数

約3,600世帯

活動内容

新興住宅地帯である当地域は都市化の進展や生活形態の変化、価値観の多様化により連帯感の希薄、家庭の孤立化がみられ、犯罪や事故の発生が身近に感じられるようになりました。

そこで、地域の安全は地域で守ろうとの意識が強くなり、防犯、防災部が中心となり、コミュニティ協議会内の各団体に呼びかけ、地域住民の連帯感を呼び起こし一体となって住民の防犯意識の高揚を図っております。

見える犯罪の抑止方策として平成17年10月、自転車による「ながらパトロール」を実施しました。その方策は自転車の前籠に「安心安全パトロール」のステッカーを貼り付け、日常的な買物や用件の際に使用し、地域内のどこにでも目に付くようにして抑止効果を狙いました。当初は250台の自転車でありましたが、毎年協力者が増加し、現在は750台が常時パトロールを実施しています。

また、近年子どもを対象にした凶悪犯罪が発生しており、当地域でも子どもに対し、声かけや腕をつかむなど、不審者による行為が散見されるようになり、地域の子どもの安心安全を図るため、ボランティアパトロール隊の結成を呼びかけ、当初83名の参加者を得て平成20年1月31日、小学校全校児童を対象に隊員と対面式を実施し、翌日から学校を中心に南北に分け低学年を中心に輪番制にしてパトロールを実施しました。この活動を展開しているうち隊員も次第に増加し、現在108名が連日活躍しています。



実績・効果

最近子どもたちと住民との間にあいさつをかわすことも多くなり「ながらパトロール」の人と地域住民たちとの間に相互理解によるあいさつやパトロール隊に対する理解と協力によるあいさつ運動がさわやかに広がっています。パトロール隊が中核となり、コミュニティ協議会全体の避難訓練を平成20年11月16日に実施したほか、夏期に2回、歳末に1回警察の協力を得て、夜間パトロールも実施し、地域住民から感謝されています。

パトロール隊の編成に際しては、地域から応分の補助を得て全員に帽子とベストを支給し、保険にも加入しています。今後とも地域や子どもを守るため継続して実施してまいります。

地域コミュニティ協議会名称

紫竹地域コミュニティ協議会

活動名称

JR 信越本線・白新線紫竹踏切の新設・拡幅に向けた取り組み

世帯数

約 2,700 世帯

活動内容

紫竹地域は JR 信越本線・白新線の線路に分断されています。分断された地域間をつなぐ、ただ一個所の連絡通路である紫竹踏切は、周辺地域の開発による人口増加に伴い、朝晩のラッシュ時には、車や歩行者・自転車で溢れ、その横断には大変な危険を伴っています。また、この踏切は、信越本線・白新線のほか貨物線等の複数の路線が敷設されており、通過する電車等の本数が多いため、「開かずの踏切」として有名です。これまでも、私たちは、まちづくりトーク、区長と語る会など機会あるごとに、改善をお願いしてきましたが、なかなか改善されませんでした。

これらを踏まえ、今回、市の担当職員をお招きして住民勉強会を行うなど、新たに地域住民の要望として、分断された市道（紫竹東明線・紫竹河渡線）を直線につなぐ踏切の新設に向け、市や JR に対し、要望や働きかけなどの活動を展開しています。

実績・効果

地域住民の願いである、安全に暮らせるまちを実現するための活動を通じて、紫竹地域の一体感の醸成が図られつつあります。

地域コミュニティ協議会名称

新潟市木戸地域コミュニティ協議会

活動名称

木戸地域の安全・安心なまちづくり活動

世帯数

約4,350世帯

活動内容

当コミュニティ協議会は、木戸小学校と竹尾小学校の二つの校区を擁するものでありますが、両校とも従来から子どもたちの安全については、学校・保護者並びに地域住民が一体となって、活動してきております。

自転車や自家用車に「防犯パトロール中」のステッカーを取付け、保護者は登下校時を主体に、地域住民は随時“ながらパトロール”で犯罪の防止に努めてまいりました。

その中、平成19年度から「防災防犯部会」と「学校部会」の専門部会を設け、これら活動組織への積極的な参入と支援を行い、より効果が上がるパトロールの工夫（パトロール者を目立たせる）や地域協力者の増員等を行っています。また、コミュニティ協議会主催で毎年、安全・安心なまちづくりのための「安全・安心講習会」を開催しています。講師は外部からお招きし、地域の安全を保つにはどのようなことをすべきか等の講演・意見交換などを行っています。



実績・効果

コミュニティ協議会で専門部会を設けたことにより、学校や保護者の方々との交流が深まり、いろいろな情報が交換できるようになりました。それらを基に学校側からの新たな行事アイデアや、また、地域住民側から学校への課外活動協力増にも発展しています。

まだ、部会は走り出したばかりであり、関係各部門と更なるコミュニケーションを積み上げて行く必要があると考えています。

そのためには、ある程度の資金の裏付けも必要になると思われます。

地域コミュニティ協議会名称

牡丹山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

交通安全推進活動

世帯数

約5,800世帯

活動内容

当小学校区は、国道7号（新潟バイパス）が東西に走り、併せて県道（赤道）が南北に通じる三角地帯に位置している為、極めて交通量が激しく、特に朝夕のラッシュ時には、竹尾インター付近から山の下（国道113号）までの通称赤道は慢性的な交通渋滞となっています。その為、先を急ぐ車輛は、地域内の市、私道に進入し目的地に向かっているのが現状であります。地域内の住民であれば危険箇所を一応承知していて、その場所を通過する時は細心の注意を払って通過する為、地域内の住民が加害者になる事は極めて低く、大半が地域外からの車による事故であります。このような現状から「せめても被害者にならないように」を合言葉に、平成19年は当コミュニティ協議会主催による「交通安全推進大会」を開催し、特に地域の老人クラブ会員や幼稚園児・小学生を中心に意識の高揚を図ったところであります。また老人クラブの月例会等には、地元交番のお巡りさんからおいで願い講話や映写、腹話術等によって注意を喚起し、幼稚園・小学校においては、地区交通安全推進協議会等々タイアップしながら自転車乗り教室の開催や、ポスター或いは標語等を募集して注意を呼びかけております。



大会を盛り上げる為のアトラクション



交通安全に関する功労者表彰風景

実績・効果

昨年の「交通安全推進大会」の開催以来、機会ある毎に交通弱者を対象とした交通事故防止の呼びかけが功を奏してか交通量は全く変わらないにもかかわらず、被害を受ける地域住民が減りつつあります。中でも児童の登下校時においては、当コミュニティ協議会の会員が交替制で危険箇所の街角に立ち、交通指導を実施している事等緻密な日々の実行が効果を上げつつある事は喜ばしい次第です。今後共更に気を緩める事なく「継続は力なり」を実践していく所存であります。

地域コミュニティ協議会名称

入舟小学校区コミュニティ協議会

活動名称

第4回入舟小学校区自主防災会防災訓練

世帯数

約2,400世帯

活動内容

平成20年10月5日に入舟小学校区自主防災会主催で防災訓練を行いました。今回は災害想定を‘新潟市西部を震源とする震度5強の地震が発生し、一部で家屋が倒壊した。重軽傷者12名、電話不通で、停電、断水し、余震の可能性があり’としました。

この想定下で訓練を次のように行いました。

- (1) 各自治会で決められた一時避難場所に集まり、住民の安否を確認すると共に災害時要援護者への災害時連絡を行い、避難時の支援（リヤカー等）の準備をしたのち、参加者は主会場（入舟小学校体育館）に移動しました。
- (2) 主会場では、各自治会・町内会の責任者が避難人数を確認し、自主防災会情報部に報告しました。情報部は避難者総数を合計して市災害本部に報告しました。
- (3) 最終的に避難者は31自治会・町内会で総数602名でした。
- (4) 全体を4班に分け、それぞれを巡回して訓練を実施しました。
 - (i) 消火器取扱い（時間20分）
 - (ii) 防災資機材・火災警報器・ガス器具等の展示物見学（時間20分）
 - (iii) 及び (iv) 心肺蘇生法及びAED習得（時間45分）

なお、消火器取扱いは自治会から選出された防災リーダーが事前に消防署員による指導を受け、当日には参加者のリーダーを務めました（今年度より）。

- (5) 給食給水班が調理した非常食を会場内で試食後、解散しました。
- (6) 訓練時間 開始時刻：8時30分～終了時刻：正午



実績・効果

当コミュニティ協議会構成人員約6,400名の約1割が参加した訓練となり、防災意識の向上と共にコミュニティの連携強化にも寄与しました。

また、今回より災害時要援護者への対応を強化し、コミュニティで支えていく基盤の構築に努めました。

地域コミュニティ協議会名称

栄小学校区コミュニティ協議会

活動名称

栄防災会・防災訓練

世帯数

約 1,700 世帯

活動内容

当地区は、古くからの町並みが続く地域で、高齢化が進み、災害時要援護者の比率は、市の平均が約4パーセント程度であるのに対して、約12パーセントに達しています。

また、一部の地域では、昭和39年の新潟地震の際に、浸水の被害にもあっています。

平成18年のコミュニティ協議会発足と同時に、自主防災組織を結成し、防災訓練に取り組んでいます。

訓練は、人身被害の軽減を第一の目標とし、年々課題を設けて実施しています。これまでに消火、煙体験、負傷に対する応急手当、心肺蘇生法、避難訓練、搬送及び焚き出し等の訓練に取り組んできました。

今年度は、心肺蘇生法を中心に応急手当の訓練を行い、避難訓練では、一步踏み込んで、負傷者や災害時要援護者の搬送に取り組みました。



実績・効果

繰り返し訓練を行った結果、参加者からは

- 1 一つの訓練を集中的に実施して欲しい。(一つ一つの技術をより深く身に付けたい)
- 2 安全な町にするため、歩道上の障害物を取り除きたい。
- 3 災害時に町全体でどのような対応が可能なのか検討すべきだ。

など、生命の安全や防災に備えたまちづくりに関して、前向きかつ具体的な提案がなされるようになってきています。

今後のコミュニティ活動に、より大きな成果が期待されます。

地域コミュニティ協議会名称

湊校区コミュニティ協議会

活動名称

防災訓練を糧として

世帯数

約2,000世帯

活動内容

湊校区コミュニティ協議会を結成して平成20年で3年目を迎え、ようやく共通認識が芽生えてきたと感じていますが、その拠点並びに財務・事務局が不十分であり、大きな悩みです。

当地域は中央区一、高齢化率が高い地域です。先の新潟地震においては被害が少なく、日ごろ防災に関しての意識も比較的希薄な状況にあって、近隣意識も年々低下傾向が見受けられていたことから平成20年度は、防災訓練を企画し、地域のコミュニケーションの活性化と、少しでも安全・安心等に住民の関心を高めたいという思いで、防災訓練を最重点事業としました。

当コミュニティ協議会の防災・安全部会には、自主防災組織を組み入れてあることから、防災・安全部会を中心とし、他の部会と連携、幾多の会議を重ね、コミュニティ協議会会長が本部長となり、行政・消防・警察・小学校と協働し実施しました。

訓練当日、予想を35%も上回る604名の参加があり、防災意識の高揚と地域住民の交流及び避難所の確認がなされるなど、進行もスムーズに運営され、高い評価をいただきました。



実績・効果

コミュニティ協議会各部会の連携並びに、役員会の信頼関係による協力体制が比較的うまくいったことが成功に繋がったと思いますが、行政等との協働、避難先となる小学校の協力、婦人部・スポーツ振興会・PTA・消防団等の活動が素晴らしく、感激したところであり、地域の防犯・防火・事故防止等、意識の高揚を確信できました。

また、当コミュニティ協議会の存在をわずかながらも示すことができたことと、今後の活動も進めやすくなったと感じています。

地域コミュニティ協議会名称

白山校区コミュニティ協議会

活動名称

白山校区コミュニティ協議会自主防災訓練

世帯数

約2,700世帯

活動内容

当コミュニティ協議会では、平成20年9月21日に、消防署や区役所、地元の消防団、白山小学校等との連携を図りながら、第3回白山校区コミュニティ協議会自主防災訓練を実施しました。

雨天にもかかわらず総勢220名で、昨年よりも多くの参加があり、有意義な自主防災訓練を実施することができました。

もしも自分たちが災害に遭遇した時のためにも、また自分たちの安心安全のためにも防災訓練への関心が高まり、必要性の要望が多く聞かれます。

訓練当日は、各自治会・町内会名入りの、のぼり旗のもとに会場のグラウンドに集結しましたが、開会近くに曇りから雨になり、急きょ訓練会場を体育館に変更しました。

災害は、時を選ばず、場所を選ばず、予告なしにやってくることを踏まえながら、雨天時も想定した計画を含め、十数回の検討を重ねてきました。

参加者の皆さんの理解と協力を得て、混乱もなく無事に訓練を終えました。

また今回、女性委員が初めて非常食のアルファ米の炊き出し訓練を行いました。訓練終了後、参加者全員に非常食の五目ごはん、非常用飲料水を配りました。

非常食を初めて体験した人が多く、味への評判も上々でした。



実績・効果

自治会・町内会においては要援護者の方への対応などを中心に、防災全般に関心が高くなってきて、緊急連絡網の作成などに取り組んでいるところが多く見受けられます。

また今後も、訓練種目も同じ種目を多く取り入れ、繰り返し訓練を受けることで緊急時の対応の仕方の一助になるものと思います。

様々な課題はありますが、今後も自主防災訓練の一層の充実に努めたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

礎地域コミュニティ協議会

活動名称

礎地域自主防災会

世帯数

約 1,700 世帯

活動内容

礎地域は新潟市の中心に位置し、昔より住民の自主活動が盛んな地域です。

当地域では、高齢者の占める割合が非常に高く、災害時避難誘導、安否確認等、地域としての援護体制の確立が急がれていました。

そして平成18年5月に礎地域自主防災会として発足しました。

平成18年11月5日に第1回、19年10月28日に第2回、20年10月12日に第3回目を行いました。

防災訓練の内容は、各町内会ごとに集合して歩いて避難場所に向かう避難誘導訓練、消火器及びバケツリレーによる初期消火訓練、救出救護訓練、非常食炊き出し訓練を実施しました。参加した約150人の住民は、震災が発生したという想定のもと、本番さながらの訓練を実施しました。

開催にあたり、当コミュニティ協議会、市役所、市中央消防署礎出張所、市消防団中央方面隊礎分団、新潟地区民生委員児童委員協議会、市赤十字奉仕団礎分団、市社会福祉協議会、市防火連合会礎支部など、各団体協力のもと実施しました。



実績・効果

実際に防災訓練を行ったことにより、自分たちの地域は自分たちで守ろうという防災意識が高まっています。

そして、地域で活躍する団体にも、自分たちの活動をアピールすることができました。

礎地域自主防災会設立3年にして、地域住民の連帯感が生まれ、防災活動による、安心安全な地域づくりが少しずつ確立してきました。

地域コミュニティ協議会名称

浜浦小学校区コミュニティ協議会

活動名称

「安心・安全なまちづくり」地域の安全・環境パトロール活動

世帯数

約3,700世帯

活動内容

浜浦地区の環境

海岸線（関屋浜）約1,600m、河川（信濃川・関屋分水路）約900m、橋梁（新潟大堰橋・浜浦橋・堀割橋）3本、JR越後線、国道116号、国道402号、県道新潟・亀田・内野線

などが輻輳している住宅街です。

活動内容

「安心・安全なまちづくり」を目指し、きめ細かなパトロールを実施しています。西海岸公園、海岸線、河川、公園等は市民の憩いの場であると同時に、不法者の溜まり場でもあり、時々問題が発生する地帯です。その予防・摘発は単独自治会・町内会では困難で、協議会をあげて効果的な解決策で取り組む事としました。

- ・16の自治会・町内会を3班に分け、各班に班長を選任し、円滑な運営を図っています。
- ・パトロールにより問題点を摘出し、規定の報告用記録用紙に記載し、防犯部会長、環境部会長に提出します。担当部会長は内容検討の上、協議会で説明し、適切な処理を行います。



実績・効果

実績

学校の出入り口3箇所が、喫煙目的の溜まり場になり、地域住民が防火面・環境面から危険を感じていましたが、環境部会長が関係当局と幾度かの話し合いを行い、解決しました。当局の指導強化並びに、出入り口に禁止看板を設置した事によります。

効果

- ・単独の自治会・町内会では重荷で解決不可能な問題でも、コミュニティ協議会で取り組む事で解決がスムーズに展開しています。
- ・災害時の隣接自治会・町内会との相互支援、連携がスムーズになり、防災面で大きな効果を得ました。